

今日の一問 (やまだ塾)

(2008年8月8日掲載)

No.64	これまでの社会保障制度改革の流れと現在の「社会保障制度」が直面している課題を述べよ。						
解答	<p>(1) これまでの社会保障制度改革の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1990年代から2000年代前半にかけて、一連の「構造改革」が実施されたが、「社会保障構造改革」はその重要な柱の一つであった。 <p>2000年以降、以下の社会保障制度の改革が行われた。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 2000年：介護保険制度創設 ② 2001年：医療保険制度改革（本人3割負担の導入等） ③ 2004年：年金制度改革（マクロ経済スライドの導入、将来保険料水準の固定等） ④ 2005年：介護保険制度改革（予防重視への転換、施設居住費・食費の自己負担化等） ⑤ 2006年：医療保険制度改革（新たな高齢者医療制度の創設、療養病床の再編成等） <p>「社会保障制度の持続可能性の確保」をキーワードとする一連の改革により、社会保障制度の構造改革が進み、経済財政との整合性、社会保障制度の持続可能性は高まったとされている。</p> <p>(2) 現在の社会保障制度が直面している課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2000年以降の一連の社会保障構造改革によっても十分に対応できなかった問題や改革の過程で新たに生じた問題など、社会保障制度はさまざまな課題に直面している。 						
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="360 1317 564 1366">課題</th> <th data-bbox="564 1317 1347 1366">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="360 1366 564 1756">① 少子化対策への取組みの遅れ</td> <td data-bbox="564 1366 1347 1756"> <ul style="list-style-type: none"> ・過去20年以上、日本の出生率はほぼ一貫して低下し、少子化の進行スピードは非常に早く、2007年には日本の総人口は減少に転じ、「人口減少社会」に突入した。 ・1990年の「1.57ショック」以降、国も地方自治体も少子化対策への取組みを進めてきたが、本格的少子化対策への取組みは十分ではなく、そのことが更なる少子化の進行を招く要因となっている。 ・少子化の進行は社会保障のみならず、日本経済社会全体の基底を揺るがす大きな問題で、少子化対策は「待ったなし」の課題となっている。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="360 1756 564 1989">② 高齢化の一層の進行</td> <td data-bbox="564 1756 1347 1989"> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の高齢化率は20%を超え、世界一の高齢社会になっているが、今後も、少子化の動向が変わらない限り、高齢化は進行し、2025年には30.5%、2050年には39.6%に達すると予想されている。 ・さらに、75歳以上高齢者の増加にともなって、医療・介護を中心に社会保障給付費の増大は不可避であり、医療・介護を中心に、制度の持続可能性 </td> </tr> </tbody> </table>	課題	内容	① 少子化対策への取組みの遅れ	<ul style="list-style-type: none"> ・過去20年以上、日本の出生率はほぼ一貫して低下し、少子化の進行スピードは非常に早く、2007年には日本の総人口は減少に転じ、「人口減少社会」に突入した。 ・1990年の「1.57ショック」以降、国も地方自治体も少子化対策への取組みを進めてきたが、本格的少子化対策への取組みは十分ではなく、そのことが更なる少子化の進行を招く要因となっている。 ・少子化の進行は社会保障のみならず、日本経済社会全体の基底を揺るがす大きな問題で、少子化対策は「待ったなし」の課題となっている。 	② 高齢化の一層の進行	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の高齢化率は20%を超え、世界一の高齢社会になっているが、今後も、少子化の動向が変わらない限り、高齢化は進行し、2025年には30.5%、2050年には39.6%に達すると予想されている。 ・さらに、75歳以上高齢者の増加にともなって、医療・介護を中心に社会保障給付費の増大は不可避であり、医療・介護を中心に、制度の持続可能性 	
課題	内容						
① 少子化対策への取組みの遅れ	<ul style="list-style-type: none"> ・過去20年以上、日本の出生率はほぼ一貫して低下し、少子化の進行スピードは非常に早く、2007年には日本の総人口は減少に転じ、「人口減少社会」に突入した。 ・1990年の「1.57ショック」以降、国も地方自治体も少子化対策への取組みを進めてきたが、本格的少子化対策への取組みは十分ではなく、そのことが更なる少子化の進行を招く要因となっている。 ・少子化の進行は社会保障のみならず、日本経済社会全体の基底を揺るがす大きな問題で、少子化対策は「待ったなし」の課題となっている。 						
② 高齢化の一層の進行	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の高齢化率は20%を超え、世界一の高齢社会になっているが、今後も、少子化の動向が変わらない限り、高齢化は進行し、2025年には30.5%、2050年には39.6%に達すると予想されている。 ・さらに、75歳以上高齢者の増加にともなって、医療・介護を中心に社会保障給付費の増大は不可避であり、医療・介護を中心に、制度の持続可能性 						

		<p>をいかに確保していくかが大きな課題である。</p> <p>・一方、高齢者世代には給付切り下げ・自己負担増への不安があり、現役世代(特に若者世代)には負担増への忌避意識・世代間の負担の不公平感がある。今後の改革の方向によっては、国民意識の分裂・社会保障制度の基盤が揺らぐ可能性もある。</p>
	③医療・介護サービス提供体制の劣化	<p>・救急医療体制の弱体化、産科・小児科を中心とする医師不足、地域医療の崩壊、介護分野における恒常的人材確保難など、生活を支える医療や介護サービスの基盤が劣化している。「医療崩壊」という言葉さえ使われている。</p>
	④セーフティネット機能の低下	<p>・現在、批判のある事柄は以下の通りである。</p> <p>① 労働市場の二極化・格差の固定化が進み、被用者保険から脱落する非正規労働者が増大するなど、社会保障制度のセーフティネットからもれてしまう層が増大している。</p> <p>② 本来、労働市場改革(規制緩和)とセットで行われるべきだった社会保障改革(非正規労働者への社会保険適用拡大等)が行われなかったことが、労働市場の二極化、非正規労働者の増大を増幅した。</p> <p>③ 一人暮らし高齢者の増大、家族や地域の支援力の低下、格差の拡大やワーキングプアといった課題に対して、社会保障の生活保障機能、所得再分配機能が十分働いていない。</p> <p>・格差の拡大やセーフティネット機能の低下は、「社会の公正さ」への不信感を増大させ、社会保障の基盤である「国民の相互連帯意識」を大きく損なうという意味でも大きな問題とされている。</p>
	⑤制度への信頼の低下	<p>・制度改正を重ねる中で、社会保障制度は非常に複雑なものになった。運用面での課題も多く、国民にとってわかりにくく利用しにくい制度になっている。</p> <p>・制度が複雑でわかりにくいことは、制度運営の非効率さにもつながり、結局は制度が本来の機能を十分発揮できない原因にもなっている。</p> <p>・加えて、社会保険庁問題などで国民の信頼を大きく裏切る不祥事が発生し、そのことで制度そのものへの不信が生まれている。</p>
<p>(注)「問題 11. 少子高齢化の中で持続可能な制度の構築に向けた「最近の社会保障 3 大改革」のねらいとポイントを述べよ。」を参照のこと</p>		

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2008 Shunsaku Yamada. All rights reserved.